

Kyot.Prot.N. 98/2013
京都教区 共同宣教司牧ブロック
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

2014 年 司教年頭書簡
神の「貧しさ」を生きる
～貧しい人々への優先的選択(Option for the poor)～

2014 年ブロック司教訪問の趣意書

1. 2014 年の教区テーマ

教皇ベネディクト 16 世が、自発教令『ポルタ・フィデイ』（『信仰の門』）で呼びかけた「信仰年」が終わりました。「信仰年」は、第二バチカン公会議開幕 50 周年を記念して、2012 年から始まりました。この公会議は 1965 年の第 4 会期まで 4 年間続きましたので、来年からの 2 年間（2014 年～2015 年）も、第二バチカン公会議の実りをじっくり検証する時だと思っています。

私は、「信仰年」に合わせて、2011 年から 3 年間、「信仰」をテーマにした年頭書簡を書きました。昨年は、パウロの「主においてつねに喜びなさい」（フィリピ 4・4）を出発点にして、「信仰の喜び」をテーマにしました。神からの呼びかけに応える信仰の中に「信仰の喜び」を再発見するために、「信仰のセンス」に照らして「信仰の喜び」を確認しました。

来年の年頭書簡は、ベネディクト 16 世教皇に続いて選ばれた新教皇フランシスコの選出から、教区のテーマに「貧しさ」を選びました。年頭書簡のタイトルは、「**神の『貧しさ』を生きる ～ 貧しい人々への優先的選択（Option for the poor）～**」です。それは、教皇フランシスコの「貧しさ」のメッセージに基づいています。「私は 貧しい人々による貧しい人々のための教会を望む」。

教皇フランシスコの登場は、現代のカトリック教会にとって摂理的だと思います。というのも、第二バチカン公会議を契機に（教会憲章 8 項参照）、「貧しい人々への優先的選択」（Preferential Option for the poor）を推進してきたカトリック教会は、現代世界に対して自ら告げる福音の信ぴょう性を証しするために、今こそ自ら貧しくなるか否かの選択の時代に来ているからです。

「貧しさ」と福音の関係を考えて、「貧しさ」という概念を「物質的」なものと「精神的」なものに分け、さらにそれぞれ「否定的」なものと「肯定的」なものに分類してみました。

否定的な「物質的貧しさ」とは、人間性を奪うもので、根絶すべき貧困です。

肯定的な「物質的貧しさ」とは、信仰によって敢えて自発的に求めていく「福音的」な「物質的貧しさ」です。

否定的な「精神的貧しさ」とは、人が富に溺れることで、人間としての精神的・霊的価値を持たない状態を言います。

肯定的な「精神的貧しさ」とは、人が神への信頼によって、柔和で謙遜になれる霊的な状態を言います。

そこで、来年の年頭書簡では、貧しさについてのパート 1 として、「物質的な貧しさ」について取り上げて、再来年パート 2 として、「精神的・霊的な貧しさ」について考えたいと思います。

2. ブロック司教訪問のプログラム

①ブロック訪問の構成（およそ 140 分）

1. 主日のミサ（60 分）
休憩 10 分
2. 司教講話（60 分）

②ミサの時間は、

原則、訪問する小教区の通常の日曜日のミサから始まります。

ただし、ブロック訪問のため、特別にミサ時間を変更する場合は、事前に教区本部事務局（大森）まで、お知らせください。

③ブロック内のミサについて

ブロックの事情に合わせて、ブロック内の各教会の主日のミサをすることを、担当司祭の判断にゆだねます。

④司教ミサの典礼について

ミサは、その日の「主日の典礼」です。

ミサの準備の中で、年頭書簡のテーマ「貧しさ」に関連して工夫する。

例：共同祈願、歌など。

3. 2014 年 ブロック司教訪問日程

①	2 月 2 日	洛北ブロック	小 山 教 会
②	2 月 9 日	三重北部ブロック	鈴 鹿 教 会
③	2 月 23 日	滋賀ブロック	草 津 教 会
④	3 月 2 日	山城ブロック	精 華 教 会
⑤	3 月 9 日	洛東ブロック	河原町 教 会
⑥	3 月 16 日	三重南部ブロック	名 張 教 会
⑦	3 月 30 日	京丹ブロック	長 岡 教 会
⑧	4 月 6 日	奈良ブロック	大和高田 教 会
⑨	5 月 11 日	宮津ブロック	宮 津 教 会
⑩	7 月 6 日	舞鶴ブロック	西舞鶴 教 会
⑪	7 月 20 日	奈良ブロック	大和郡山教 会
⑫	9 月 21 日	三重南部ブロック	松 阪 教 会